

## 今後整理すべき課題

アンケート調査から得られた事項	今後整理すべき課題（※）
○「大規模停電時に新エネが有効活用できなかった理由」として、「起動電力の確保ができなかったこと」が多い。	○北海道ブラックアウトの教訓を活かすべき
○市町村において、「新エネ設備敷地外への送電を行っている」との回答	○電気：ネットワークの地域ブロック化とスマート化、そして北海道全体でのスマート化へ
○稼働中の再エネ設備として、市町村、民間団体・事業者とも、太陽光発電、バイオマス熱利用（木質）、地中熱利用が多い。	○熱：次のインフラ整備（コンパクトシティと熱利用施設の集約）
○クリーンエネルギー自動車について、市町村は7割程度所有しているが、民間団体・事業者は3割以下の所有。	○運輸：EV、FCVのシェア拡大（運輸部門の転換）
○「蓄電池を備えていない理由」について、市町村では「コスト面」が多いが、民間団体・事業者では「必要ない」が多い。	○再生可能エネルギーから貯蔵型エネルギーへの変換（蓄電池、水素など）
○「新エネ導入の課題」として、市町村、民間団体・事業者とも、設備費、維持費、事業採算性等の「コスト面」と、導入に向けた「人材不足」が上位。	○人材育成
(全体を踏まえて)	○エネルギー基地としての北海道（外部供給、販売）

※「今後整理すべき事項」は石井座長：第4回道総研オープンフォーラム 基調講演「北海道の地域資源とエネルギー」の説明資料から「北海道の将来のエネルギーのあるべき姿（私案）」に関する内容を一部抜粋したもの